

赤く色づき 品質上々に

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA伊勢玉城柿部会は18日、玉城町のJA玉城選果場で、柿次郎の出荷を始めた。初日は、品質や形状、大きさを別に分けて箱詰めした約600キを出荷した。出荷に向けた目ざろえ会は14日、同選果場

で開いた。選果の規格を統一することを目的



傷などを確認する選果員

に、部会員約60人が参加した。

同部会は、市場との連携を強め、食べ頃の「次郎」を消費者に提供できるよう、より赤く色づいた柿の出荷を行っている。JAの担当者は「今年産は、夏の高温と7月の少雨の影響で小玉傾向だが、品質は上々だ。食べ頃の次郎柿を消費者に届けたい」と話す。

同部会では、部会員72人が約23畝で「次郎」を栽培している。出荷は11月下旬まで続き、名古屋や県内の市場に約140トを出す計画だ。